

■ 第8次総量削減計画素案及び総量規制基準素案作成の考え方

中央環境審議会 答申	環境省（第8次総量削減基本方針：H28.9）				京都府総量削減計画（案）
	現状		今後行うべき対策		
第8次水質総量削減の在り方について（H27.12）	<p>◆ 大阪湾</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・COD濃度は近年横ばいであり、環境基準の達成率の向上には至っておらず、大規模な貧酸素水塊も発生。</li> <li>・窒素及びりん濃度は近年減少傾向であり、環境基準の達成率は平成22年度以降100%を維持。</li> </ul> <p>【参考】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 東京湾及び伊勢湾 <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境基準達成率が低く、大規模な貧酸素水塊も発生</li> </ul> </li> <li>◇ 大阪湾を除く瀬戸内海 <ul style="list-style-type: none"> <li>・水質は他の指定水域に比較して良好な状況</li> </ul> </li> </ul>		<p>◆ 大阪湾：</p> <p>窒素及びりんの達成状況を勘案しつつ、特に有機汚濁解消の観点から水環境対策のための対策を進めることが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標年度：平成31年度</li> <li>・生活排水処理施設等の整備、下水の高度処理化推進</li> <li>・合流式下水道の改修（雨水滞水池の整備、雨水浸透施設の設置、遮水管の能力増強、雨水吐の堰高の改良、スクリーンの設置等）</li> <li>・処理技術の動向も考慮し、水質総量規制基準適用による指定地域内事業場負荷量削減を継続</li> <li>・小規模事業場等に対し、引き続き上乘せ排水基準による規制や汚濁負荷の削減指導を継続</li> <li>・環境保全型農業の一層の推進</li> <li>・家畜排せつ物の適正処理の推進、高度利用等の推進 等</li> </ul> <p>【参考】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 東京湾及び伊勢湾： <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も環境改善を進める必要</li> </ul> </li> <li>◇ 大阪湾を除く瀬戸内海： <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の水質が悪化しないように必要な対策を引き続き実施</li> </ul> </li> </ul>		<p>次の方策を定めた第7次計画を現状に照らして修正し、平成31年度を目標年度とする第8次計画を策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生活排水処理施設の整備等 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 下水道の整備等</li> <li>② その他の生活排水処理施設の整備</li> <li>③ し尿処理施設の整備</li> </ul> </li> <li>(2) 総量規制基準の設定</li> <li>(3) その他の発生源に係る対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 生活排水対策</li> <li>② 総量規制基準が適用されない事業場等への対策</li> <li>③ 農地からの負荷量削減対策</li> <li>④ 畜産排水対策</li> </ul> </li> <li>(4) 教育、啓発等</li> <li>(5) その他汚濁負荷量の総量の削減に関して必要な事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 底質汚泥の除去</li> <li>② 監視体制の整備</li> <li>③ 調査研究の推進</li> <li>④ 中小企業への助成措置等</li> <li>⑤ 広域的な連携の強化等</li> </ul> </li> </ul>

中央環境審議会 答申	環境省（C値の範囲に係る告示：H28.9）					京都府総量規制基準（案）
	現状又は検討の方向			検討結果		
水質に係る総量規制基準の設定方法について（H28.9）	時 期 区 分		COD	窒素	りん	変更せず
		S55.6.30 以前	Q <sub>e0</sub>	Q <sub>no</sub>	Q <sub>p0</sub>	
		S55.7.1～H3.6.30	Q <sub>ei</sub>			
		H3.7.1～H14.9.30	Q <sub>ej</sub>	Q <sub>ni</sub>	Q <sub>pi</sub>	
H14.10.1 以降						
業種等	区分	215の業種等に区分			変更せず	
	名称	産業分類の名称により規定			変更せず	
	C値の範囲	<p>① 現状非悪化の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・C値の範囲の上限値が都府県が定めたC値の最大値より大きい業種等区分</li> </ul> <p>② 過去のC値の範囲の設定状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・C値の範囲が強化されていない業種等区分</li> <li>・既存施設Q<sub>0</sub>と新增設（Q<sub>i</sub>、Q<sub>j</sub>）に係るC値の範囲の設定の差が大きい業種等区分</li> </ul>			<p>◆ 大阪湾：</p> <p>COD：15業種について、C値の範囲を一部見直し窒素及びりんについては変更なし</p>	
<p>COD、窒素含有量及びりん含有量のそれぞれについて、次の考え方により、現行基準を改定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 原則、第7次基準を踏襲</li> <li>(2) (1)に関わらず環境省告示の範囲を逸脱する場合、その上限値までC値を引き下げ</li> </ul>						